



愛川ふれあいの村3月の風景

平成27年3月 自然のたより

木々の先端にふっくらとした新芽が見られ、淡く優しい色合いにかすむ山々は、まるでほほ笑んでいるよう。植物は暖かい春の陽気のもと嬉しそうに花を咲かせ、鳥たちはさえすったり、枝の上でゆったりと休憩している姿が見られます。植物も動物も、春特有の心地よさを満喫しているようです。



ヤシャブシの木に止まるマヒワ



花になったフキノトウ



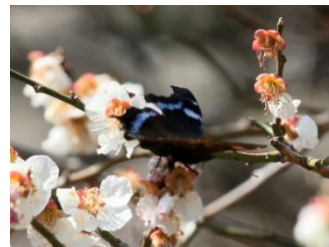
梅花に寄るスズメ



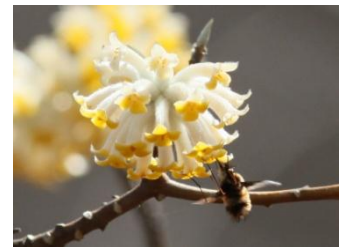
散歩中のアオジ



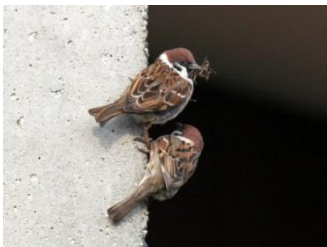
カラスの巣作り



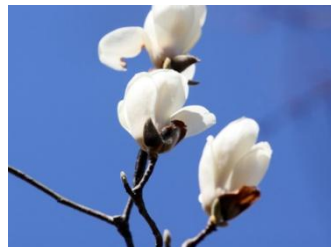
翅を休めるルリタテハ



ミヤマとヒロロードツリアブ



スズメの巣作り



青空とハクモクレン



ルリビタキ



カワツザクラの開花



トサミズキの花



死の巣を引っ張るイガ



花開いたサンシュユ



マツホウツリにとまるヤガウ

★春の妖精、カタクリ★

二週間しか花が咲かない美しい花

春の穏やかな日差しを受けてカタクリの薄紫の花が開きました。カタクリは花をつけるまでの7～8年は葉を1枚だけ出し、地中で養分を蓄えています。

春を告げる花のひとつで、花が咲いても2週間程度しかその姿は見られません。その儚さから「スプリング・エフェメラル（春の妖精）」と呼ばれています。神奈川県では絶滅危惧種に指定されており、よりいっそうカタクリを大切なものと思えます。

長い時間をかけ蓄えた養分を使い、花を咲かせているカタクリ。たとえ見えていなくても、しっかりと養分を蓄え、時が来たらきれいな花を咲かせる。そんな健気なカタクリの姿に憧れます。



★日本を象徴する花は？★

日本の「春」と言えば、「サクラ」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。3月終わり頃から4月半ばまで、たくさんの種類のサクラが私たちを楽しませてくれます。

サクラは日本を代表する花として一般的に知られていますが、実は『日本の国花（こっか）』として法で定められているわけではないのです。

日本の国花は特に制定されていませんが、日本を象徴する花として『サクラ』と『キク』があり、百円硬貨にはサクラ、皇室の家紋のモチーフとしてキクが使用されています。

人々を楽しませるだけでなく、日本人の生活の中にも取り入れられています。他にどんなところに使用されているか探してみても面白いですよ。



▲咲き始めたシダレザクラ



▲シダレザクラ

十ヶ月の最終回(マカ)



ちえけ.

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子・葉青芳

文章：葉青芳・大瀧裕基子 イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村
で、検索★